



『学院の創立』に思いを馳せて

学院宗教主事：シスター鶴野 篤子

7月に入ると、学校はそろそろ夏休みムードが漂い始めます。今年はコロナ対策が緩和され、久々に家族で夏休みを楽しみたいものですね。

7月2日は、桜の聖母学院(幼小, 短大)の創立記念日です。もちろん、幼, 小, 中, 高, 短大の始まりには、それぞれに違った状況やニーズがあり、ドラマがありました。1932年、5人の修道女(シスター)が福島の地に於て教育活動を始めたのは、1938年に開設した「雛菊幼稚園」でした。しかし、第二次世界大戦が勃発し、1941年に雛菊幼稚園は閉園させられました。外国人の強制送還によって多くの宣教師や修道女が帰国した中で、CNDのシスターたちは日本に留まることを選びました。そして、シスターたちは、会津若松で厳しい監視の下に軟禁生活を余儀なくされたのです。そのような中でシスターたちは、戦争で親を亡くした子どもたちを引き取って世話をしようと話し合い、神様に約束していました。

福島に戻ってきたシスターたちは、早速19人の戦災孤児を引き取りました。その中に、就学期に達している子どもたちが16人いたのです。この子どもたちのために万難を排して小学校開設に取り組み、終戦の翌年1946年に開校することができました。その子どもたちの中学進学のために中学校を開設、その3年後には高等学校を開設しました。更に、1955年に短期大学を開設したのでした。戦後復興の最中に10年という短期間で、地方都市の福島に、小さいながら、幼小, 中高, 短大を含む総合学院が実現したのは大変珍しいことでした。それは、敗戦から立ち直るために必要な「教育」だという、シスターたちの強い信念と信仰に基づく不屈の精神によるものでした。学院創立の核となったのは、19人の戦災孤児でした。また、日本の法律や複雑な役所の手続きを根気強く助けてくださった多くの方のお陰でもありました。神様はこれらの善意の結晶である桜の聖母学院の誕生を、恵みと祝福で満たしてくださいました。感謝。

先輩と再会！6年 聖母中体験 2023.6.15

6年担任 原田 聖士

今年も実施した「6年 聖母中体験」中学校の生活や行事について教えていただいたり数学の体験授業を受けたりしました。

最後はお楽しみの部活動体験。懐かしの先輩方とともに憧れの部活を体験し、少し大人になった気分を味わって喜んでた6年生です。

これらの体験を通して、中学校生活をより身近に感じ、より詳しく知ることができました。

【部活動体験…吹奏楽部】懐かしの先輩方が丁寧に教えてくださいました。



防犯訓練「イカのおすし」 2023.6.13

スクールサポーター上野様をお迎えして防犯訓練を行いました。不審者が校内に侵入した場合を想定して、児童、そして教職員の対応もご指導いただきました。講話では、「イカのおすし」をもとに、子どもたちの防犯意識を高めてくださいました。「イカのおすし」のチラシをご覧になりながら、ご家庭でもぜひ振り返りをしていただきたいと思います。

「こわいので、いかに、あわないうめ、確認して、いかに、さし、ました。イカのおすし」



ご協力ありがとうございました

◇6月3日(土)に、今年度1回目の「資源回収」と「ベルマーク作業」を行ないました。

- ・資源回収…………… kg
- ・ベルマーク作業…………… 点

◇次回11月4日(土)におきましても、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。学校側担当(加藤 湯川)

幼稚園～7月『未就園児クラス』のお知らせ～

◇園の玩具や室内園庭などで、親子で自由に遊びます。お知り合いの方にぜひお声かけください。【さくらんぼクラス：0歳からのお子さま】

- ・期日…… 3日(月)・11日(火)・14日(金)
- ・時間…… 10:00～12:00
- ・予約制…各回10組程度
- ・1回につき200円(保険込み)

※「エンゼルクラス」→8月29日(火)開催予定

6月の催し

◇17日(土)「土曜参観日」(幼小同日開催)

・講演会では本学院短期大学 土屋 久美教授を講師に迎え、「幼少期における食育の重要性」についてお話いただきました。将来の健康を見据えて即実践できるお話が多々ありました。

◇20日(火)「プール開き」

・全校生でプールを囲んで行ないました。6年生の見事なデモンストレーションには、大きな拍手が湧き上がりました。

◇21日(水)「年長組 体験入学」

・国語と算数の体験授業を行ないました。今年度は4年ぶりに1年生と交流しながらの授業で、より楽しみながら取り組むことができました。

学院祭に向けて

◇「学院祭」に関するお便りを、本日配付させていただきました。今年度も、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

『協力費』納入期間⇒事務ポスト

●7月 4日(火)～7月 5日(水)

『現物協力品』受付期間⇒担任(提出用紙貼付)

●8月28日(月)～9月 2日(土)

何でも2品以上/子ども3品以上/駄菓子1品以上

*その他:古本, 工作, リサイクル(制服, 運動着, 登山用品)

令和6年度「第1回 学校説明会」

◇日時: 令和5年7月15日(土)10:00～12:00

◇対象: 外部園児および保護者, 内部園児保護者

◇概要: 英語発表(1, 6年生), 説明会, 体験授業(和太鼓), 自由参観

*お知り合いの方に、ぜひお声をかけて下さい。

『創立記念日朝会～学院の歩みと自身の思い出～』 ～本学院幼稚園教諭 阿部 直子先生～

聖マルグリット・プールのジョアが1676年にコンブレガシン・ド・ノートルダム修道院を設立し、その精神を受け継いだ5人のシスターが福島にやってきたのが1932年、今から91年前のことでした。

診療所、雛菊幼稚園、抑留所を経て、第二次世界大戦後に戦災孤児を受け入れて養育し、始まったのが「桜の聖母学院」です。

聖母小で先生方や友達と一緒に過ごした時間は、今でも私の大きな宝です。

私の大好きな聖母学院で、後輩の皆さんも多くの宝物を見つけて欲しいと願っています。(阿部 直子)



小学6年生の直子先生

ミニコラムNo.49 『バスケットボールからの学び』

2年担任：黒岡 朋子

私は、中学・高校・大学・社会人と約20年以上バスケットボールを続けてきました。素晴らしい恩師と仲間に出会えました。

なぜバスケットをずっと続けてきたのかと聞くと、単純ですがバスケットボールが好きだからです。どんなところが好きなのかというと2つあります。1つ目は、バスケットボールの特性に関わることです。自分がシュートを決めるときやチームのみんなと協力して相手にシュートを決めさせなかったときはとても嬉しいです。

2つ目は同じチームの仲間との存在です。バスケットボールの練習は、とてもつらくて厳しいです。練習では、走りすぎて苦しくなり、倒れそうになったことが何度もあります。それだけつらく、苦しい練習を一緒に乗り越えてきた仲間とは、心から信頼し合えるし、仲良くなることができます。

「継続は力なり」私の大好きな言葉です。20年以上続けてきたバスケットボールが、私の人生の中で大きな力となっています。バスケットボールを通して出会った人たちと、抱いた感情や見えてきた景色は大切な経験となり宝物です。

桜の聖母学院小学校のみなさんにも、好きなことや得意なことを見つけて、長く続けて欲しいと思います。たとえすぐに形に残らなかったとしても、「その経験があったから」と思える日が必ず来ると信じています。がんばってください。応援しています。



シュートを決める黒岡先生!